



Chapel News No.132

大学礼拝

第132号新入生歓迎号 東北学院大学 2015年4月1日

巻頭言

「命、光、愛」



大学礼拝

宗教部長
野村 信

東北学院大学のスクールモットー（建学の精神）は、「命、光、愛」であり、これは英語聖書のLife, Light, Loveに由来し、本学では3L精神と呼ばれ、親しまれてきました。この言葉はfor the Worldが続きます。

大学で学ぶ学生一人一人は、知識と教養さらに創意と工夫という力を身につけると同時に、この三つの精神によって心を滋養され、この力の向う方向、目的がより明確、幸いなものとなるように期待されています。

「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる」と聖書は語っています（コリント八・二）。知識だけが独り歩きし、客観的判断だけで物事と取り組めば、当然知識の

多い人、専門性の高い人の意見や判断が優先するでしょう。しかしその方向、目的はどこに向かうのでしょうか。スイスの教育家ペスタロッチは、「信条も宗教もない知識はどんな悪でも生み出す」という主旨のことを語っています（以下の本、Lienhard und Gertrudの中）。

そこで、豊かな知識、高度な専門性を身につけつつ、同時に明確な方向、目的を私たちは持つことが不可欠です。さきほどのLife, Light, Loveの聖書の言葉の後にfor the Worldと加えられているのは、付け足しではなく、知識と学問を3Lに基づいて人々へ、そして世界に向けてほしいという願いからです。

それは、自分の利益や繁栄だけを願うのではなく、世界の平和、福利を目指して取り組む普遍的な価値を持つことが期待されています。

現代世界はますます相互交流、多用途の受容、環境との共生、そして自由と平和な社会形成が求められています。大学で学ぶ学生一人一人が、「地域へ、世界へ」より積極的に向かい、役立つような姿勢を身に付けてほしいと思います。

大学では、各キャンパスの礼拝で聖書についての説き明かしが毎日なされます。これを大切にし、しっかりと土台を固め、人生の方向、目的をこの学び舎で身につけてください。皆さんにとって本学での学びと共に大きな収穫になると信じています。

迎える者がいた

学長 松本 宣郎



東北学院大学に入学された皆さんに、改めて心から歓迎の挨拶をいたします。入学おめでとう!もちろん皆さんは自ら学力を磨き、厳しい試験に合格して大学生の資格を得たわけですから。それを、私たちは、神さまが皆さん方一人一人を選ばれたのだ、と信じ、またそのことを喜んでいきます。東北学院は、今から129年前、日本初代のプロテスタントキリスト教徒のひとり押川方義と、アメリカから日本伝道を志して派遣された宣教師W. ホーイ、D. シュネーダーが協力して創設した学校です。その働きもまた私たちは神さまの計画と選びによって果たされたのだ、と信じているのです。

東北学院はこのように近代日本の開国のとき流入した、ヨーロッパの諸要素のひとつとしてもたらされたキリスト教を基盤としています。そのキリスト教が二千年前スタートした時代にキリストを伝えた最大の使徒はパウロでした。彼はユダヤからギリシア、小アジアに大伝道旅行を行って、エフェソやコリントなどの教会に福音を伝えたのですが、最後にイタリアのローマに渡りました。ナポリ近くの港で船を下りてから、徒歩でローマに向かいました。そのパウロを、ローマの教会の人たちは、ローマから何キロも先の宿場町まで迎えに来た、と聖書には記されています。彼らは、神の言葉を伝える使徒がローマに遣わされたことを喜んで、長い道のりを初めて顔を見るパウロのためにやってきたのです。

皆さんにとって、大学は未知の大きな世界だと思います。出会う人々も初めてでしょう。これからしばらく、新しい体験にばかり遭遇することでしょう。けれど、東北学院は、その皆さんを迎えに出ています。そして、私たちより先に、神、キリストが皆さん方を見つけ、駆け寄り、手を引いて迎えているのです。その迎えにどうぞ応えてください。

泉キャンパスでも多賀城キャンパスでも、朝の礼拝があります。そこでの聖書朗読も讃美歌もメッセージも、多くの新入生の皆さんには初めての出会いかもしれません。けれどその礼拝でこそ、いちばん神さまとキリストが近く皆さんを出迎えることになるのです。

礼拝堂を出て、そこからは学問上の、あるいは課外活動上の、新しい出会いの一日を歩み始めてほしいと思います。

泉キャンパスの新入生の皆さんへ



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんがそれぞれ自分の将来の準備のためにこの東北学院大学で学ぼうとの決断をされたことに、心からエールを送りたいと思います。キリスト教を建学の精神とする本学には、皆さんの四年間が実り豊かなものとなるように、日々の大学礼拝とキリスト教が設定されています。学生生活の過程で悩んだり迷ったりする時にも、聖書は確かな道しるべとなることでしょう。マタイによる福音書に、「求めなさい、そうすれば、与えられる。探さなさい、そうすれば、見つかる」との主イエスの言葉がありますが、新たな出会いを求めて積極的に探究し、未知の扉をたたくのは皆さん次第です。皆さんの人格形成において非常に大切な時となる四年間、本学でしっかり学ぶことによって、それぞれの分野で社会に貢献できるような人間力とスキルを身につけて下さい。

総合人文学科長 出村みや子

多賀城キャンパスの新入生の皆さんへ



新入生のみなさん、入学おめでとうございます。ついに、大学生生活がはじまりました。キリスト教の教えを「建学の精神」の基本に据える東北学院大学の一部として、皆さんがこれから四年間を過ごす工学部の多賀城キャンパスでも、土樋と泉のキャンパスと同じ様に、創立から二九年間守り続けてきた大学礼拝が講義期間、毎日行われます。

新入生の多くがこれまでの人生ではじめてキリスト教の雰囲気と接することになると思います。しかし、視野を世界に広げれば、キリスト教を知ること、世界の人人々に対する理解を深めることにもつながります。皆さんも、この東北学院大学の学生の一員として、日々の講義と共に、大学礼拝にも積極的に参加し、この大学でこそ得られる豊かな経験を積み重ねて、人格的に成長した成人として、この大学を卒業して欲しいと思います。

大学宗教主任 原田浩司

新入生の皆さんへ

先輩たちに自由に語ってもらいました。

—新入生のこれからの大学生活のため、上級生の皆さんからアドバイスをしてもらいたいと願い、昨年のサマーカレッジの開催中に、五人の上級生に、大学生活や礼拝のことなど日ごろ思っていることを話してもらいました。

礼拝のオルガンの響きと話の多様さ

—まず礼拝について尋ねると、皆異口同音に、パイプ・オルガンの音色の美しさに圧倒されたという答えが返ってきました。細川 わたしの家の近くにコンサート・ホールがあり、一、二度聞いたことがありますが、毎日、聞くことが出来るのには驚きました。

塩田、長井 通っていた学校がカトリックのキリスト教主義の高校だったので、初めは礼拝の雰囲気異なり、多少戸惑いを

覚えました。しばらくすると慣れました。いろいろなお話が聞けて有意義だと思えます。

菊地 わかりやすい話をしてくれる先生たちが多いので、学ぶことも多いと思います。

佐藤 讚美歌は慣れると歌うのは楽しいです。

—皆、すっかり礼拝になじんでいる様子です。

大学生活は豊かな語り与交流の場

—続いて、大学の生活はどのようなものか、特に印象に残っていることは何かを語ってもらいました。

菊地 大学は、最初は互いに知らない人たちの集まりですから孤独ですが、楽しんで生活するように工夫し、自己管理を積極的にして、リズムを作るのが大切だと思います。

長井 わたしは大学では自由に動けて、積極的に行動出来たと思います。特にさまざまなイベントや会合、講演会などがありますから、関心のあるものに出るだけ出席して、大いに学び、友達や先生たちと語り合いました。

佐藤 わたしも思ったよりも、先生たちとの距離が近くて、直接いろいろ話が出来たことはとても良かったと思います。

塩田 留学生に日本語を教えるボランティアをしました。とても楽しかったです。

細川 講義の合間をぬって(時にサボって)カラオケに行ったのも楽しかった。(一同笑い)

—なるほど、みなさん、それぞれ自分大切に育てつつ、積極的に行動し、語り交りの輪を広げているようで、好印象でした。さて、勉強のほうはどうだったのでしょうか。

大学の講義は出来るだけ出席しよう

佐藤 やはり講義は大切です。休まずに全出席を心がけるのが大事だと思います。それと図書館が充実しているので大いに活用し、先生たちに積極的に質問すると良いと思います。

一同 先生たちと仲良くなるのも一案です。長井 大学は学部が多いので、学科を越えて講義を聴きに行けるのはメリットだと思います。それと、出来るだけ本は原語で読むという努力をしました。そこで、古本でしたが、ずいぶん本を買いました。古本だと書き込めるのがいいです。

細川 友達からも大いに教わり、一緒に勉強したり、同じ本を読書したりしました。人が薦める本はそれなりに良いものが多いです。それで友人どうして本をよく貸し借りました。共通項があるというのは楽しいです。

一人で悩まないで！

—さて、最後に新入生に特にアドバースしておきたいことは、何かありますか。

一同 特に伝えておきたいことは、一人で悩まないように、ということ。同級生や先生たち、さらにカウンセリングセンターも充実していますから、人や外に向かうのが大切です。

それと、あるものを使うということです。無いものに不満を言うのではなく、あるものを大いに利用しよう。「立っている者は親でも使え」ってありますし(笑い)。

—少し意味が違いますが、分かりますね。みなさん、さすがにしっかりと行動しています。

今日は、取材協力、ありがとうございます！



△出席者▽

- 菊地君 (教養学部四年)
- 佐藤君 (工学部四年)
- 長井君 (文学部四年)
- 細川さん (文学部三年)
- 塩田さん (経済学部三年)

第10回 「学生のためのオルガン公開講座」のお知らせ



大学オルガニスト
今井 奈緒子

この講座は、礼拝の楽器として用いられているオルガンに親しみ、演奏することを目的としています。専門家である本学の礼拝オルガニストが、各キャンパス礼拝堂のオルガンを用いて指導します。

単位に関係のない講座ですので、卒業まで継続して受講することも可能です。受講場所も開講時間に合わせて、希望のキャンパスで受講することができます。

◆ 受講資格

・楽譜を読むことができ、鍵盤楽器の演奏に多少なりとも心得があること

・レッスン、練習に励む意思のあること

◆ 対象

本学に在籍する学生

(所属学部・学部生・大学院生を問わず)

◆ 内容

オルガンの奏法と作品を学ぶ
(個人またはグループレッスン形式)
ガイダンスと修了演奏会を実施します。

◆ 場所

土樋・多賀城・泉、各キャンパス礼拝堂

◆ 受講料

年間一五、〇〇〇円

◆ 期間

五月〜十二月(レッスンは月二回ペースで実施。その他自主練習、演奏会準備)

◆ 募集人数

各キャンパスにつき若干名

◆ 講師

小野なおみ

(礼拝オルガニスト)

今井奈緒子

(教養学部教授、大学オルガニスト)

◆ ガイダンス開催日

受講希望者は所属キャンパスに拘わらず、五月七日(木)二六時に、泉キャンパス音楽研究室(礼拝堂二階)の前へ集まってください。ガイダンスの後に受講の意思確認をし、講師との顔合わせレッスンの相談、調整等を行います。

出席不可な場合は事前に宗教音楽研究所までご連絡ください(022-375-1185)。なお、希望者多数の場合は相談、抽選ないし後日オーディションをさせていただく場合があります。

宗教部

聖歌隊

へのお誘い

みなさん、一緒に歌を歌いませんか。中学、高校とみんなで合唱する楽しさを味わった人は大勢いると思います。大学でもぜひ一緒に楽しく歌いましょう。本学の「聖歌隊」は、長く親しまれてきた合唱曲や宗教音楽、また讃美歌を歌い、定期演奏会で発表したり、クリスマスにメサイアを歌ったり、と楽しい企画が幾つもあります。ボイストレーナーの先生が定期的に指導に來られます。秋に合宿の計画もあります。

歌うことの好きな方は大歓迎です。今年度の第二回の会合は、四月十四日(火)のお昼休みに礼拝堂の一階の聖歌隊室で行います。以後、火曜日のお昼休みの「火曜練習日」と木曜日の午後二時半からの「木曜練習日」に練習します。是非、参加しましょう。

2015年度 礼拝オルガニストの皆さん

●東北学院大学オルガニスト●
今井 奈緒子

●東北学院大学礼拝オルガニスト●

阿部 和子 大泉 真理
小野 なおみ 加藤 晶子
亀井 陸子 京極 扶美恵
坂上 芙美恵 佐々木しのぶ
菅原 淑子 長谷部真理子
渡辺 真理



編集後記

新入生の皆さん、緑の広がる両キャンパスで良く学び、語り、楽しい大学生活を送ってください。毎日行われる大学礼拝への出席を大切に、心の養いをしてください。貴重な時になると思います。

なお、今夏の八月三日〜五日に開かれるサマー・カレッジでは、「ローマ帝国とキリスト教」を主題にします。詳細は礼拝堂の入り口に七月初旬にチラシを準備しますので、それをご覧ください。希望者は誰でも参加できます。

二〇一五年四月一日

東北学院大学宗教部

千九八〇-八五一

仙台市青葉区土樋丁目三番二号